

れんぎ
認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261
Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658
f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa
ブログ 雲南の郵便屋さん 検索
編集・発行人 初鹿野 恵蘭
印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第58号

発行日 2016年(平成28年)8月15日

会報

「25の小さな夢基金」愛と感動の春雷生卒業式 第8期生93名 感謝の気持ちを胸に 旅立ちました



「25の小さな夢基金」の支援生徒が在籍する昆明女子中学の卒業式が先日行われ、同基金の第8期生93名を含む5クラスの生徒が同中学を旅立ちました。日本から訪れたサポートー9人も卒業式に参列しました。同中学で学ぶ少数民族の女子高生を支援する「25の小さな夢基金」は2006年にスタート。去年9月に第10期生98名が入学し、これまでに支援した生徒は560名に上ります。

卒業式の翌日、卒業したばかりの柏雪さんと趙麗麗さん(ともにイ族)のふるさと・玉溪市に向かい、柏雪さんの実家と英語教師になった第1期生の陳紹仙さん(ワ族)を訪問しました。

サポートー千々岩哲さんの卒業式の感想と、平田栄一さんの玉溪市訪問の感想をご紹介します。



支援した2人の記念すべき卒業式に立ち会って



「感謝的(恩に感謝する心)」。二度目の参列となった春雷クラスの卒業式で、私はその曲名を知りました。卒業生皆がお世話になった方々に感謝を込めて踊ります。卒業式への参列は、個人旅行では決して味わうことができない想い出を与えてくれます。私が初めて雲南を訪れたのは2008年のこと。大自然はもちろんのこと少数民族の方々と出会い、想像以上に魅了

◆ 千々岩さんが3年間支援した
鮮澤葵さん(漢族)と熊成芬さん(ブミ族)

されました。帰国後、雲南との繋がりを私に提供してくれたのが協会であり、「25の小さな夢基金」でした。旅で知ることの多くは外から観たもの。夢基金では、学生との文通交流等を通して内なる雲南と出会うことができます。今年は私が支援していた2名が卒業を迎みました。この機を逃してはならないと「ふれあいの旅」に参加したのです。日本の卒業式はおごそかと言えるかも知りませんが、儀式的であります。それに比べて春雷クラスの卒業式は、生徒と先生の協同作業で雰囲気も大きく異なります。例えば、生徒たちが創った想い出映像の上映。彼女たちには仲間と暮らした3年間を振り返る時間であり、参列する私達には、彼女たちの頑張りと苦労を感じ取る機会となります。また、

・通訳ボランティア 村上めぐみ(雲南大学博士課程)、蒋永輝、肖莉香、李瑞瑞(以上、雲南大学浜浦学院)、張昱(雲南大学) 順不同、敬称略

先生方への感謝の儀もあります。校長先生の祝辞の中で、今年の春雷卒業生の大学入試試験の成績はとても良く、皆進学できるという報告がありました。彼女たちは精一杯やりきったようです。頑張りと思い出、そして感謝を込めて生徒たちは、「感謝的心」を踊り、卒業式は終りを迎えます。終了後、生徒たちはお互いを労い、抱き合ひ、別れを惜しました。卒業式が終われば、ほとんどの学生達は直ぐに宿舎を離れ帰郷するそうです。それぞれの道を進むスタートの日となる卒業式。これほど想い溢れた式を私は他に知りません。もし、卒業式に一度も参加していない方がいらっしゃるなら、参列を強くお勧めします。貴方が出会ったことのない素晴らしい瞬間が、そこにはあるはずです。今回の「ふれあいの旅」で特に想い出深いのは、支

援していた鮮さん、熊さんとの会食です。夢を描いていた最中の2人、年齢からすると当然です。そんな2人を見て生き様を語れる大人でいたいと強く思いました。文通を通して二人からは多くのものを受け取りました。別れ際に彼女たちがくれたプレゼントは雲南との絆の証となりました。

▼サポートー、ボランティアの皆さんと
昆明市女子中学の校門で



ふれあいの旅 春雷卒業生の実家訪問

卒業式を終えた翌日の7月2日、卒業生の故郷訪問の旅が始まりました。今回は、今年度卒業生の実家訪問にあわせて、2013年の卒業生で現在は墨江市の高校で英語教師をしている陳紹仙さんを訪ねることになっています。玉溪は昆明から高速道路で南に下ること、ほぼ2時間。墨江は玉溪からさらに2時間程南へ下ったところにあります。

まずは陳さんが暮らす墨江へ直行。星過ぎ、墨江市内の約束の場所で陳さんと再会を喜び合いました。陳さんは2013年に墨江第一中学の英語教師として採用され、既に教師歴3年。春雷生の頃の幼さはすっかり影を潜め、りっぱな“老師”的な顔になっていました。学校はすでに夏休みに入っていましたので、陳さんの教師姿を見ることは適いませんでしたが、陳さんは



「教室にいると春雷時代の先生方の苦勞が身にしみてわかる」と笑っていました。社会人になって3年、現在お父さんの看護と仕事の板挟みに悩みつつも、大好きな教師の職を続けて行きたいと明るく語ってくれました。帰り際、突然降り出した大雨にもかかわらず、「また必ず会いましょう」と手を振って見送ってくれました。

墨江を後に玉溪へ向かって北上。ところが玉溪目前の新平まで戻って来たところで高速道路は大渋滞。2時間過ぎても3時間過ぎても動かない。どこからか、トラックが中央分離帯を突き破って横転したらしく、との噂話が伝わって来て、中国の“口コミ”的な早さを実感していました。予定の時間を大幅に遅れて玉溪に到着。玉溪市政府関係の方が準備してくださった晚餐を堪能し、翌日早朝に帰國予定の会員諸氏は慌ただしく玉溪の暗闇の中を昆明へ戻って行きました。

◆ 英語教師になった陳紹仙さんの自宅

◆ 柏雪さんの家の入り口

3日。実家訪問組はゆっくりと朝食を済ませた後、今回のメインイベント、今年卒業した柏雪さんの実家へ。柏雪さんの実家は、玉溪市内から西南方向へ車で1時間ほど行った、峨山彝族自治県塔甸鎮という小さな村の一角にありました。塔甸鎮は半円を描いた綺やかな斜面にいくつもの農家が軒を連ね、足元には緑の段々畑が幾重にも重なり合い、目を上げると山並みが遠くで見える、美しい里山に囲まれた長閑な集落でした。

柏雪さんは導かれて綺やかな坂道を登り、路地へ入ると、「着きました」と柏雪さん。そのことに隣に帰ってきた安堵感というか、格別の喜びのようなものを感じました。小さな門をくぐって中に入ると、お母さんとおばあちゃんが笑顔で出迎えてくれました。お母さんの笑顔には、娘が無事に、そして優秀な成績で昆明女子中学を卒業して帰って来た喜びが溢れているようでした。お母さんは柏雪さんを出産するとき、大きなお腹を抱えてこの家から町の病院まで歩いて行ったそうですが、なんの辛さも感じなかつ

たそうです。そして、こうして大きく成長した娘の柏雪さんには、「好きな道を歩いてほしい」と語っていました。

暇乞いをして外に出ると、緑に包まれた里山が一面に広がっていました。お母さん、おばあちゃんの深い愛情と自然溢れるこの里山が、柏雪さんのように裏表のない、まっすぐな子どもを育んだのではないかと感じました。8月の下旬、柏雪さんは念願の雲南大学外国语学院の英語学科生として“青春”的な一步を踏み出しているはずです。

会員・元雲南支部特命支部長 平田栄一



▲ 柏雪さんの家族が出迎えてくれました

・ご協力 玉溪市政協 李少華副主席、任連榮主任 心より感謝申し上げます



「25の小さな夢基金」

第7回「夢は叶う」講演会

—講師 平木理化さん—

「25の小さな夢基金」で支援する春雷生に、夢を叶えた先輩方が人生を語る「夢は叶う」講演会。7回目の今回は、新井淳一顧問のご紹介によりプロテニスプレーヤーで公益財団法人日本テニス協会常務理事の平木理化さんを講師に迎え、5月14日、昆明市女子中学で行われました。講演前日に是提携大学の雲南大学濱池学院体育学院

平木理化—高校1年生で世界(WTA:世界女子テニス協会)ランクを取得し、世界ツアーハブ戦開始。1997年にインドのプロ選手と組んだ急造ペアで、全仏オープン混合ダブルス優勝。16年間の世界ツアーを転戦した中で、WTAの選手委員やドーピング委員を長年務め、1996年にはアジア人で初めてのWTA選手理事に選出され、任期を全うした。2014年6月よりNTTコミュニケーションズ株式会社で業務に従事する傍ら、JTA(日本テニス協会)の常務理事に就任し、戦略委員会、TENNIS PLAY&STAY推進プロジェクト委員会の委員長として特に10歳以下の子供たちへのテニスの普及と、日本のテニスの強化普及活動に貢献している。

で「日中テニス交流会」を開催、学生たちとともに汗を流しました。平木理化さんとテニス交流会に参加した学生の牛邦さんには感想を寄せていただきました。

 講師 平木理化さん

昆明市女子中学で講演させて頂き、女の子たちの目がとても輝いていたのが印象的でした。民族の風習や慣習などにより勉強したくても出来ない環境で育ったからこそ、色々なことを全力で吸収しようとしているように感じました。講演後の質問も難しいものが多く、真剣に聞いてくれたことを嬉しいと思うと同時に、私自身も気が引き締まる思いでした。

彼女たちは、勉強すること自体が継続していく環境だったが故に、勉強させてもらえることに感謝していて、知らなかつたことを知ることができ、どんどん知識を増やす勉強の楽しさを既に知っているように感じました。自分の道は自分で選択でき、当たり前のように勉強することができる日本の環境は恵まれていると思っていましたが、同じ年代だった頃の自分自身を振り返ってみると、勉強する理由は主とし

講演会を終えて

てテストで点数を取るために感じ、勉強の本質を知っている彼女たちが羨ましく思いました。

昆明女子中学の女の子たちは、「どんな環境であってもその環境だからこそ得られることがある」という事を証明してきていますので、学んできた多くの知識を最大限に活かし、将来的の未知の世界を切り開いて頑張り、更なる飛躍を期待したいと思います。

平木理化さん(右から2人目)



主 催：日本雲南聯誼協會

共 催：昆明市女子中学、雲南大學濱池學院

ご協力：メティネットインターナショナル株式会社、雲南省政協、麗江市政協
心より感謝申し上げます



テニス交流会に参加して

雲南大學濱池學院體育學院
牛邦さん

はっきり覚えています。ちょうど私は試合に出ようとしていたので、やる気がみなぎってくるようでした。

午後には体育館に移動し、平木先生のすばらしい技術を目の当たりにしました。先生は私たちとプレーして、先生の経験と考え方にに基づいたたくさんのアドバイスをくださいました。

交流会の後、わたしたちは別れましたが、先生が私たちに教えてくださったお話はしっかりと脳裏に刻みました。私は先生に習った通り努力を続け、先生の精神に学び、日本の学校に行って勉強できることを目指し、是非また先生にお会いしたいと思います。

スポーツは友好を深められます。今回の交流では技術も言葉も高めることができ、協会と先生方にとって感謝しています。今後、このような中日交流がたくさん行われ、相互学習と交流の機会が増えることを願っています。

雲南少数民族女子高生と上海日本人学校高校生が“おもてなし”国際交流

「25の小さな夢基金」

第4回 日雲高校生国際交流プログラム



日本の高校の授業を体験
それぞれの民族衣装を着て踊りを披露



的な態度をとても褒めていました。

閉会式の後、小雨の降る中を高等部のみなさんがつくる見送りの輪をくぐって高等部を後にしました。わずか1日の交流ですが、春雷生にとっても、高等部学生にとっても、心に残る1日になったことでしょう。上海日本人学校高等部のみなさまのお心遣いに、あらためてお礼を申し上げます。

会員・元雲南支部特命支部長 平田栄一



会場：上海日本人学校高等部

主催：日本雲南聯誼協會

協力：メティネットインターナショナル株式会社
上海日本人学校／昆明市女子中学

7月14日、早朝の上海は薄曇りながらも、汗がじわじわと滲み出てくるほどの暑さをもろともせず、昆明市女子中学春雷クラスの生徒代表5名と引率教師2名が上海日本人学校高等部を訪問し、4回目となる日雲高校生国際交流会が開催されました。

この交流会は、協会会員でメディネットインターナショナル株式会社代表取締役社長の三木秀隆氏の発案と多大な経済的ご支援に加え、上海日本人学校の全校生徒さんと教師のみなさま、在上海日本国総領事館、在上海日本商工俱楽部のみなさまのお力添えによって実現しました。厚くお礼を申し上げます。

交流会のプログラムは高等部の学生さんが中心となって、「前回はちがったおもてなし」と工夫を凝らしたイベントが入念に準備されていました。

8 : 30	開会式
8 : 50 ~ 10: 40	全体交流
10 : 40 ~ 12: 00	分散交流
12 : 00 ~ 13 : 00	昼食休憩
13 : 10 ~ 14 : 50	授業体験
15 : 00	閉会式

開会式には、在上海日本国総領事の片山和之氏もご多忙な公務の合間にねってご臨席いただき、日中の高校生に通訳を介さず

自らの中国語と日本語で、相互理解を深め日中友好の新時代を築くよう励ましのお言葉をいただきました。上海日本人学校高等部の玉野井敬治校長から春雷生を歓迎するご挨拶とともに、4回の交流を通して高等部の学生はもとより学校関係者の間にも雲南省への関心が高まり、次回は高等部が昆明市女子中学を訪問する方向で検討していると述べられました。

全体交流会では、春雷生と高等部学生が5組に別れてゲームに取り組みました。当初はぎこちなかった春雷生もゲームが進むにつれて、急速に日本人学生との距離が縮まり、あちらこちらで拍手と笑い声が沸き起こりました。ゲームの後、春雷生は民族衣装に着替えて少数民族の踊りを披露。日本人学生の間からは、色彩鮮やかな民族衣装と迫力ある踊りに感嘆の声が漏れ聞こえました。

分散交流では、高等部の5つのクラスがそれぞれにテーマを決めたイベントを開催。春雷生を交えた5つのグループが順に各教室を回り、日本の子どもの遊びや和太

鼓、アニメ、浴衣の着試など、日本の伝統的な文化の一端を体験しました。その後、高等部学生と机を並べて昼食。高等部の中には中国在住4年以上になる学生もいて、中国語に堪能な学生も多く、春雷生とのコミュニケーションは中国語と英語でなんの支障もなく弾んでいました。

午後は2年生のクラスに「留学」。数学と英語の授業を受けました。数学の授業では、まだ学習していない項目の問題を簡単に解けたそうで、高等部学生から賞賛の声が上がりいました。英語の授業でも高等部学生に劣らぬ発音と英語力を發揮。ALTのアメリカ人教師は春雷生のハキハキとした、積極

的な態度をとても褒めていました。

閉会式の後、小雨の降る中を高等部のみなさんがつくる見送りの輪をくぐって高等部を後にしました。わずか1日の交流ですが、春雷生にとっても、高等部学生にとっても、心に残る1日になったことでしょう。

上海日本人学校高等部のみなさまのお心遣いに、あらためてお礼を申し上げます。

会員・元雲南支部特命支部長 平田栄一



さいたま市 大宮支部参加 国際ふれあいフェア2016

さいたま市最大級の国際交流イベント「国際友好フェア2016」が5月3日と4日、市民の森と見沼グリーンセンターで開かれ、大宮支部が10年連続で参加しました。ゴールデンウイーク恒例の同フェア、30度を超える暑さにもかかわらず2日間で6万5千人（主催者発表）が来場しました。



飾られた少数民族の布からがんこを引いたのか、興味を持った方々が続々と協会ブースに。ボランティアの皆さんが大粒の汗をかきながら雲南の少数民族や協会活動について説明し、その場で会員になってくださった方もいました。

今回も大勢のボランティアが参加し、設営から撤収までスムーズに行えました。暑い中、皆さんありがとうございました。

ボランティア協力（順不同、敬称略）：川口邦夫、青柳茂樹、高橋福子、大泉國雄、田丸智代、市川由美子、奈良脇光夫、奈良脇百夏、金子沙樹、服部恵美子、松本ユバ、寺内明子

2016年湘南日本中国友好協会総会 出席

昆明市の友好都市・神奈川県藤沢市で活動する「湘南日本中国友好協会」の総会が6月4日(土)、藤沢市民会館で行われ、協会から滝澤崇理事が出席しました。柳田秀憲会長、鈴木恒夫藤沢市長の挨拶のあと、2015年度の活動報告・会計報告、新理事と新顧問の選出などが行されました。当協会は、「湘南日本中国友好協会」の法人会員でもあり、今後も友好協会とともに日中友好を進めています。

NGO日本医療開発機構（JMDO）事務局來訪

北原茂実理事が理事長を務めるNGO日本医療開発機構（JMDO）事務局より2名が6月22日、協会を訪れ、初鹿野惠蘭理事長、滝澤崇理事、林則幸理事と活動、運営、課題等について意見交換しました。初鹿野惠蘭理事長はJMDOの理事を務めています。カンボジアで活動するJMDOと当協会では活動地域・分野は違いますが、発展途上国の人々が教育を受けられるよう、今後も協力していきます。



第6回「アジアのこどもたち」開催

NPO4団体による共同写真展、第6回「アジアのこどもたち」が6月13日から三日間、横浜市神奈川区の「かながわ県民センター」で開かれました。共催したのは日本雲南聯誼協会と「21世紀のカンボジアを支援する会」、「レインボーグループ」、「日本スリランカ国際文化社会開発協会」です。2007年に第1回を開いて以降、府中市・練馬区・八王子市・横浜市などで共同写真展を開いてきました。各国の実情を理解してもらうため、初日に各団体が活動報告会を行いました。

来場者の一人は「貧しい中で生きるアジアの子どもたちの、明るい笑顔に励まされました」と話してくれました。（21世紀のカンボジアを支援する会理事長、日本雲南聯誼協会顧問 根岸恒次）



ボランティア協力（順不同、敬称略）：
金澤孝、塚田民枝、宋愛平、佐々木英介、上原正夫

一般社団法人 東京俱楽部助成金交付式 出席

協会の「第4回日本雲南大学生交流グローバルリーダー育成プログラム」が、一般社団法人 東京俱楽部の助成金対象に認められ、初鹿野惠蘭理事長が6月27日(月)に行われた助成金交付式に出席しました。清水雄輔顧問にご紹介いただいた同俱楽部は、「国際親善を増進し併せて会員相互の親睦を厚くし、知識の交換を図ること」を目的に、人材育成や国際親善に貢献する活動に助成を行っています。



平田栄一さん 『ごはんたべたか?』 出版のお知らせ

協会会員で語学留学のかたわら雲南支部特命支部長を2年間務めた平田栄一さんの『ごはんたべたか?』が出版されました。平田さんには、「25の小さな夢基金」9周年記念誌『未来をつくる彼女たちに』のボランティア編集長も引き受けさせていただきました。



雲南でのたくさんの人々との出会い
農村で力強く生きる人々の笑顔
色鮮やかな民族衣装
どこか懐かしい町並み
平田さんが雲南で出会った人々の
素顔を写真とエッセーで語ります

興味のある方は全国の書店または
協会事務局までお問い合わせください。

平田さんのご厚意で、購入いただいた代金はすべて協会の活動費として寄付されます。

中国語講座 参加者募集中

中国旅行に行きたいので中国語が話せるようになりたい……。中国人の友達と中国語でおしゃべりしたい……。昔、ちょっとだけ中国語を勉強したけど忘れてしまった……。いっしょに楽しく中国語を学びませんか？

日時：毎週木曜日、19:00～20:00の一時間

場所：日本雲南聯誼協会東京本部
(東京都新宿区市谷佐内町21-13 1階)

参加費：500円

※毎回、講座終了後に微徴します

※参加費は協会への寄付とさせていただきます

講師：木本一彰

〔中国語筋トレ100試験練習法〕著者、中国語訳案内士

[平田さんの本][ふれあいの旅][中国語講座]の
お問い合わせは……

日本雲南聯誼協会東京本部事務局

TEL.03-5206-5260 (平日10時～18時)

E-mail: yunnan@jyfa.org

イベント情報

「50の小学校プロジェクト」 支援25校目 開校式の旅

期間：9月1日(木)～7日(水) 6泊7日
場所：雲南・徳宏タイ族チンボ一族自治州盈江県
支援校：中日友好勐撇僑愛小学校

第4回 日本雲南大学生交流 グローバルリーダー育成プログラム

(旧称 日本雲南大学生交流スタディツア)
期間：9月1日(木)～11日(日) 10泊11日
場所：協会支援小学校、雲南省各地

グローバルフェスタ Japan2016

日時：10月1日(土)、2日(日)
場所：お台場セカンドプロムナード（東京都江東区青海）
交通：東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート」駅から徒歩1分
ゆりかもめ東京臨海新交通臨海線「青海」駅から徒歩3分
※協会ブースは決まり次第FBメール連絡などでお知らせします

●ボランティア大募集中!

協会ブースで民族衣装を着て協会活動を紹介したり、ブースでの試飲をすすめたりします。興味のある方はまずはお気軽に協会事務局までお問い合わせください！

第12回 雲南省教育支援 チャリティーゴルフコンペ

日時：10月15日(土)
場所：大月カントリークラブ（山梨県大月市）
募集人員：25組 100名

第5回 日本文化理解研修

日時：11月上旬 (予定)

場所：協会提携雲南4大学

第37回 八王子いちょうまつり

日時：11月19日(土)、20日(日)
協会出展場所：並木町郵便局横（東京都八王子市）

第15回チャリティー忘年会

日時：12月17日(土)
場所：ビヤステーション恵比寿（東京都渋谷区）

2016 チャリティー忘年会

日本と雲南少数民族友好の夕べ

協会の会員をはじめ、サポートや雲南に興味がある方が、一年間の活動を振り返りつつ親睦を深めるチャリティー忘年会を今年も開催します。毎年100名以上が参加、雲南少数民族の踊りを踊ったりと、お楽しみ抽選会で素敵な景品をゲットしたりと、今年も楽しい企画満載です。どなたでも参加できますので、お誘いあわせの上、お気軽にご参加ください！皆さんのご参加を心よりお待ちしています！

日時：2016年12月17日(土)

17:00～19:00

場所：ビヤステーション恵比寿
(東京都渋谷区恵比寿 恵比寿ガーデンプレイス内
JR恵比寿駅東口徒歩5分)

会費：一般 7,000円、学生 5,500円

定員：100名

※会費のうち1,000円を雲南少数民族教育支援活動への
ご寄付とさせていただきます。

[お問い合わせ]

日本雲南聯誼協会東京本部事務局

TEL.03-5206-5260 FAX.03-5206-5261

E-mail: yunnan@jyfa.org

編集後記

日本選手の活躍が目立ったオリオ五輪観戦で、寝不足気味の方もいたと思います。特に柔道、レスリングは久しぶりのメダルラッシュ。実は前回大会までの日本の夏季五輪金メダル130個のうち、113個を柔道、競泳、体操、レスリングで取ったのはご存知でしたか。中国も相変わらずのスポーツ大国ぶりでしたね。雲南はマラソンの高地合宿地として日本でもおなじみになりました。2020年の東京大会では、春雷クラス出身のマラソン選手が活躍するかも？（編集長・木本一彰）